

研究会・地域部会の報告書

提出者: 伊東 眞琴 / 提出日: 2024年11月15日

|             |  |
|-------------|--|
| 研究会・地域部会名   | 生命情報科学若手の会   |
| 代表者(所属機関名)  | 新井悠也(筑波大学大学院ヒューマニクス学位プログラム)  |
| タイトル(イベント名) | 生命情報科学若手の会 第16回研究会   |
| 日時          | 2024年 9月 14日 ~ 16日   |
| 場所          | ニューウェルシティ湯河原(静岡県熱海市)   |
| 共催団体        | 日本バイオインフォマティクス学会   |
| 後援団体        |  |
| 参加人数        | 35名(内訳:一般参加者30名、招待講演者2名、スポンサー3名)   |
| 目的:         | <p>本会の目的は、生命情報科学分野の学生・若手研究者が議論・交流する機会を設け、若手層の育成とネットワーク形成を促進することである。今日の実験計測技術の普及と発展により、扱われるデータ量は飛躍的に増加している。このようなビッグデータを効率よく的確に処理し、生命法則を明らかにするためには、生命情報科学が必須である。生命情報科学研究の遂行には、生物学から情報学まで幅広い分野の知識が必要となるが、若手研究者や学生が広く分野を把握することは困難である。そのため、これらの人材が情報交換・研究協力し合える交流基盤の構築が重要になる。本会は、このような課題の解決のため、過去15回にわたって研究集会を開催してきた。今年も、若手層の育成とネットワーク形成を促進を目指し、昨年3年ぶりに開催し参加者から好評であった、オンサイト形式を採用し、で参加者全員発表の合宿形式で開催する。</p>   |
| 概要:         | <p>3日間にわたって、複数の企画を実施した。主な企画を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ワールドポスター:5-6人のグループに分かれ、テーブルを囲んで互いに質問し合いながら自分の研究のポスター発表を行った。その流れを、グループを変えながら複数回実施した。</li> <li>● 招待講演:生命情報科学分野でご活躍されている研究者を招待してご講演頂いた。本年度は下記の2名の先生にご登壇いただいた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 工樂 樹洋 先生(国立遺伝学研究所 ゲノム・進化研究系 分子生命史研究室、合研究大学院大学 生命科学研究科 遺伝学専攻)</li> <li>○ 鈴木 絢子 先生(東京大学 大学院新領域創成科学研究科 准教授)</li> </ul> </li> <li>● NGS(Next Generation Science):グループごとにディスカッションを行い、生命情報科学での未解決課題に対して新たな研究アプローチを提案するアイデアソン企画。今回は6つの課題に対し、各グループでディスカッションを実施した。</li> </ul> |

#### 成果および感想:

今年度は、35名(内訳:一般参加者30名、招待講演者2名、スポンサー5名)もの方にご参加いただきました。オンサイト開催は参加者間の密な交流を実現できる一方、遠方からの参加者を中心に旅費の負担がかかるというデメリットがある。そこで本会は、本助成金をはじめとするサポートのもと、希望のあった参加者を対象に、交通費及び宿泊費のサポートを実施した。その結果、北は北海道から南は熊本まで、全国各地から学部生や院生、若手研究者といった若手が集い、一般参加者の9割以上を学生が占めることとなった。また生命科学から情報科学まで、参加者のバックグラウンドは多岐にわたった。

当日は参加者同士の自己紹介や研究紹介に加え、招待講演、スポンサーセッション、ディスカッション企画が行われた。招待講演では、招待講演では、工樂 樹洋 先生、鈴木 絢子 先生にご講演いただいた。スポンサーセッションでは、株式会社CyberomiXおよびサンリット・シードリングス株式会社の担当者の方から、会社の概要や求めている人材など、若手研究者のキャリアパスを考える上で有益な情報を共有いただいた。ディスカッション企画では、斬新なアイデアをぶつけ合うきっかけとして生物学における未解決課題の解決策を話し合う「Next Generation

Science」を開催した。限られた時間の中で、自身の知識に基づいた、夢のある自由な発想から着想されたアイデアをチームごとに発案・プレゼンし、参加者は議論をとおして、優れた発表を評価した。研究会の最後には、参加者投票に基づき、優秀な発表者や質疑応答などで議論を盛り上げた参加者を表彰した。

生命情報科学若手の会では、年会以外にも1、2ヶ月に一度のセミナーをはじめ、メーリングリストへの登録や参加者間の自発的なSNSアカウントの交換により、会の終了後も参加者間でゆるくつながりを保てる環境を提供している。よって本会で築かれた参加者間の繋がりは、今後も必要に応じて情報交換・協力しあえるような、バイオインフォマティクスを支える人材層形成の場として機能する可能性を秘めている。当日の企画内容詳細などは、若手の会の公式 HP に掲載している。

<https://www.bioinfowakate.org/activities/meetings/%E7%AC%AC16%E5%9B%9E-%E5%B9%B4%E4%BC%9A>